

幼児の母



昭和十六年

九月

新保育期

國民學校なら新學期といふところを、幼稚園ですから新保育期といひます。さて、九月久し振りの登園で、お子さん達の元氣な顔を見るのは、幼稚園としてどんなに喜ばしいことでせう。それ以上、お子さん達の嬉しさうなこと。待ち兼ねた幼稚園、そら砂場、そらブランコ、皆うづ／＼してゐるやうです。

やけた顔、ふとつた顔、なかには一寸見ちがへるやうな顔があります。上の粗の子なんか、急になんだか、尤もらしい顔になつて、先生を吹き出させたりします。

そのいろ／＼の中に、共通なことは、

夏前よりも、幼稚園をわがものと感じ、わが世界として振舞ふ様子の見へることです。この四月新入園のお子さんなぞに、それが特別はつきり見へます。これで見ると、長い間幼稚園を離れたり忘れたりしてゐたのでなく、暫く先生に預けておいて、返して貰つたといつた風です。いづれにせよ、もうしつかりと自分のものになつた幼稚園、これからこそその興味も活動も、うんと充實し發揮されて來るでせう。先生方曰く、「元氣當るべからずよ。」「あの引込み思案だつた子が……。」「皆なんて勢よくなつて呉れたのでせう。」愉快な新保育期です。しつかり力のはい新保育期です。

幼稚園から

○なんと言つても生活のきまりのゆるみがちなお休みでした。しつかりと規律正しい生活のたてなをしなませう。

○「さあまた幼稚園がはじまりましたよ。」といふことは、氣合ひを新らしく勵ますに、機會です。大に利用しませう。

○自分で出来ることに人手を借りる癖がついてゐませんか。先づ此の邊から直してかゝりませう。

○夏前へにあつた、多少でも悪い癖を直させるに、きつかけです。朝の仕度のぐず／＼すべでの、のろ／＼だら／＼を。

○お子さんの方へばかりでなく、幼稚園のきまりを守ることに、家庭としても新らしく氣をつけて下さい。

○持ちものに名まへがつけてありませうね。保育のお道具がそろへてありませうね。いつもの注意が届いてゐませうね。